

小1プロブレムに対する就学前教育について

～SST（ソーシャルスキルトレーニング）の活用法～

こども心理学科

相原美樹 伊藤貴大 雲野智義 佐久間智明 中里幸子

1. はじめに

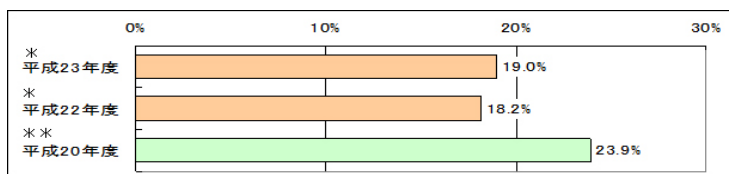
昨今、小1プロブレムという就学時に発生する問題行動が多いとされる。

小1プロブレムとは、座ってられない、話が聞けない、先生の指示に従って行動する事などの学校の流れに沿って行動することができない子のことを言う。

東京都教育委員会によると東京都では約20%の割合で発生している。

そこで小学校側は教員加配をすることにより、一人一人に目が行き届き個別の援助をした結果、小1プロブレムは減少した。

<第1学年の不応答状況が発生した学校の割合>



東京都教育委員会

2. 仮説

小1プロブレムが起きる原因は幼稚園、保育園の就学後に対する意識が低いことである。

3. 調査方法

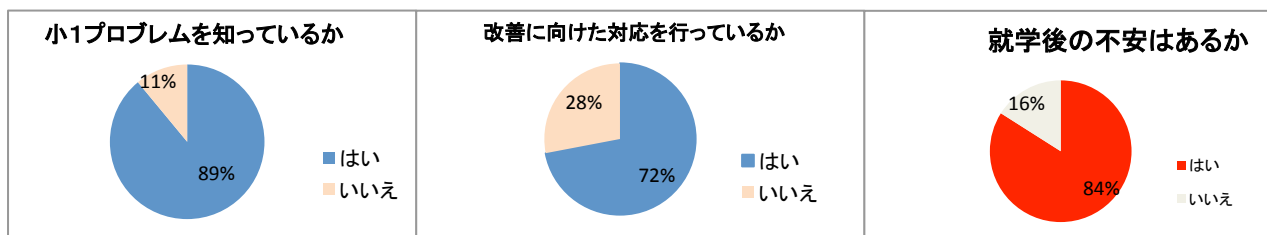
<アンケート>

対象：現役の保育士

方法：用紙アンケート

有効回答数：100人

4. 調査結果



5. 考察

保育園、幼稚園がこども達の就学後に関して意識、対策はしていたとしても、結果として小1プロブレムがおきている以上、十分ではないと考えられる。

6. 提案

行動の流れを細分化して、そのすべてを網羅するためSSTによる支援を行う。

7. SSTとは

SSTとは、目標に至るまでの過程を対人関係の力を高めることによって改善するものである。

基本的に次のような流れでトレーニングをします。

【教示】（説いて聞かせて） ゲームなどの目的を伝えやってみようとする気持ちを高める。

↓
【モデリング】（やってみせ） 指導者が実際にやってみせる。それを観察し真似する。

↓
【リハーサル】（させてみて） 繰り返し練習する。楽しい体験をすることが大切。

↓
【フィードバックと強化】（ほめてやらねばスキルは育たぬ。）

↓
リハーサルで行った行動について振り返り、いいところをほめる。不適切な場合は修正する。

↓
【定着化】 練習した場面以外の日常生活の中でもできるように促す。

8. 具体的な提案

座る

- ・落ち着いて話を聞くためには姿勢が大事ということを伝える。
- ・正しい姿勢を見せ、ポイントを示す。
- ・一度にすべてを指導するのではなく、分割して練習をする。
- ・小さな部分でもできた事をほめる
- ・バランスボールを使って体感を鍛える。

聞く

- ・図形伝達ゲームを行う。
- ・子ども達は一列に並び、保育者が最前列の子に簡単な図を見せる→最前列の子は次の子に言葉で説明する→次の子は説明を聞いて図を書く→それを繰り返して最後までいったら初めの図と照らし合わせる。（2チームなどに分かれてもよい）
- ・友達の言葉を聞かなければゲームがうまくいかないことを伝える。
- ・聞き取り、表現、会話のスキルが身につく

行動する

- ・掃除を用いて役割を遂行する行動能力を養う。
- ・役割をローテーションし、さまざまな役割を理解する。
- ・掃除が終わった子に「ありがとう」の言葉をかけることで、行動をほめる。

9. まとめ

幼稚園、保育園におけるアンケート結果を見ても対策が断片的であることがわかる。子どもの行動をひとつの時間軸の中で考えることによって、「どこで問題があり、どうすれば取り除くことが出来るのか」ということが見えてくるのではないだろうか。

10. 参考文献

2009年3月 三重県教育委員会事務局研修分野 『育てよう！ソーシャルスキルを学校で学級づくりにも役立つソーシャルスキルトレーニングの活用法』